

プラットフォーム事業者における利用者情報の取扱い状況 ヒアリングシートにおける主な項目の比較

社名	Apple Inc.	Facebook Japan株式会社	Google LLC	LINE株式会社	ヤフー株式会社
最新の情報	https://www.apple.com/jp/privacy/	https://ja-jp.facebook.com/policy.php	https://policies.google.com/privacy?hl=ja	https://line.me/ja/terms/policy/	https://privacy.yahoo.co.jp/
事業領域	IT機器の製造・販売、ソフトウェア、各種サービスの提供	オンライン・ソーシャル・ネットワークング・ウェブサイト及びこれに関連するサービス等	・検索エンジン提供 ・広告事業 等	・SNSサービス ・広告事業 ・コンテンツ販売 等	・検索エンジン提供 ・広告事業（メディア事業） ・EC事業 等
1. 利用者情報の取扱いの状況					
1-1.	<p>利用者情報取得の場面・取得する情報の内容</p> <p>「プライバシーは基本的な権利である」として、消費者のプライバシー保護に責任をもって取り組んでいる。Appleのプライバシーへのアプローチは、4つのプライバシーの柱があり（「データの最小化」「デバイス上の知能」「透明性とコントロール」「セキュリティ保護」）、これらは、プライバシーについてAppleが行っていることすべての基礎となっている。</p> <p>・Appleは、革新的なテクノロジーと技術を利用して、Apple、そして他の人がアクセスできる個人情報を最小限（「データの最小化」）にしており、取得できるデータが最小限になるように取り組んでいる。</p> <p>【取得の場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Apple ID の作成 ・iPhone の購入、アクティベーション ・ソフトウェアアップデート ・Apple のサービスへの接続 等 <p>【情報の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IDアカウント情報：Eメールアドレス、登録されているデバイス、アカウントのステータス、年齢など、Apple ID など ・デバイス情報：デバイスを特定できるデータ（デバイスのシリアル番号など）、デバイスに関するデータ（ブラウザのタイプなど） ・連絡先情報：名前、Eメールアドレス、住所、電話番号など ・支払い情報：銀行口座の詳細、請求先住所、クレジットカード情報などの支払い方法など ・取引情報：Apple の製品とサービスの購入に関するデータ、Apple のプラットフォームでの購入に関するデータなど ・不正防止情報：デバイストラストコアなど ・使用状況データ：Apple の製品やサービスの使用に関するデータ（閲覧履歴、検索履歴、製品の操作、クラッシュデータ、パフォーマンスなどの診断データなど） ・位置情報：「探す」のサポートのみを目的とした詳細な位置情報と、およびその他の位置情報。※ユーザーは位置情報の提供を拒否設定できる。 ・健康に関する情報：個人の健康状態に関するデータ ・フィットネス情報：ユーザーが共有することを選択したフィットネスとエクササイズの情報 ・財務情報：給与、所得、資産について収集された情報、Apple のブランドの金融サービスに関する情報 ・政府発行のIDデータ：特定の地域で、ワイヤレスアカウントの設定やデバイスのアクティベーションをする場合など限られた状況において、政府発行のID を要求 ・ユーザーから提供されるその他の情報：カスタマーサポートとのやり取り等、Apple とのコミュニケーションの内容などの詳細（Appleプライバシーポリシー https://www.apple.com/legal/privacy/jp/） 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の興味・関心に合わせてサービスを提供するために、個人データを使用する。 ・Facebook、Instagram及びMessengerの各サービスを提供するために、利用者に関する情報を (i) 利用者等が実行および提供するもの、(ii) デバイス情報及び (iii) パートナーからの情報という3つの基本カテゴリで受領する。 ・Facebookが提供するサービスへの参加を希望する利用者が提供を求められる情報は、氏名、メールアドレス又は電話番号、性別、生年月日、Instagramへの参加を希望する利用者が提供される情報は、メールアドレス又は電話番号及び生年月日。 ・利用者は、自らの選択により、自身の住所、言語、学歴、仕事、趣味及び好きな映画や本、音楽に関する情報等、プロフィールの追加情報を当社に提供することもできる。 ・利用者の当社サービスとのエンゲージメントに関する情報も収集される。この利用者のエンゲージメントに関する情報には、例えば、利用者が「いいね!」ボタンを押ししたFacebookページ、利用者が参加しているFacebookグループ、利用者が使用している他のアカウント、利用者が閲覧するコンテンツ、プラットフォームにアップロードするコンテンツ（投稿、写真、動画、ストーリー等）及び任意で行うフィードバック（広告が不適切であり又は関連性がないこと等）が含まれる。 ・以下のような、自社のサービスと統合された、利用者が利用するデバイスからの情報、及び当該デバイスに関する情報を収集する。 <ul style="list-style-type: none"> - デバイスの特徴：オペレーティングシステム、ハードウェアとソフトウェアのバージョン、電池レベル、信号強度、ストレージの空き容量、ブラウザの種類、アプリとファイルの名称と種類、プラグインなどの情報。 - デバイスの操作：デバイス上で行われる操作と行動、ウィンドウが前景か背景であるか、マウスの動き（ポットの識別に役立てることが可能）などの情報。 - 識別情報：利用者が利用するゲーム、アプリ、アカウントからの固有の識別情報、デバイスID、その他の識別情報、およびFamily Device ID(または、同じデバイスやアカウントに関連付けられているFacebookグループ企業の製品に固有の他の識別情報)。 - デバイスの信号：Bluetoothシグナル、および近くのWi-Fiアクセスポイント、ビーコン、セルタワーに関する情報。 - デバイス設定データ：GPSの位置情報、カメラ、写真など、デバイス設定で有効にすることにより利用者が弊社のアクセスを認めている情報。 - ネットワークおよび接続：携帯電話会社名、インターネットサービスプロバイダ名、言語、タイムゾーン、携帯電話番号、IPアドレス、接続速度、場合によっては近くにあるまたはネットワーク上にある他のデバイスに関する情報など、当社が利用者の利用を手助けするための情報（動画を携帯電話からテレビにストリーミングするなど）。 - Cookieデータ：使用デバイスに保存されたCookieデータ（CookieのIDや設定など）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Google は、すべてのユーザーによりよいサービスを提供するために情報を収集する。ユーザーの使用言語といった基本的な事項を理解することや、ユーザーにとって最も役に立つ広告などの広告か（https://policies.google.com/privacy?hl=ja#footnote-useful-ads）、おすすめの YouTube 動画はどれか、などの複雑な事項を推定することが含まれる。 ・Google がどの情報を収集するか、その情報がどのように使用されるかは、ユーザーがどのように Google のサービスを利用するか、またプライバシー設定をどのように管理するかによって変わる。Googleはユーザーが作成し、提供する情報（例えばGoogleアカウント）、Googleのサービスにアクセスするために利用するアプリやブラウザ及びデバイスに関する情報を収集し、おすすめのYouTube動画を提示するなどユーザーにより役立つ情報を提供するために活用している。また、Google サービス利用時の位置情報も収集するが、ユーザーは Googleアカウントにアクセスして、Googleに共有する情報や位置情報のような情報をいつ削除するかを確認、管理することができる。GoogleId、包括的なプライバシーポリシー（https://policies.google.com/privacy?hl=ja#infochoices）により、ユーザーがどのように自らのデータを管理できるのかを分かりやすく示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主にユーザーのアカウント開設やサービス利用の場面において、電話番号、プロフィールネーム、プロフィール画像、氏名、住所、生年月日、メールアドレス、サービス利用履歴等の情報を取得している。 ・利用者情報取得の場面及び取得する情報の詳細は、プライバシーポリシーに記載し、公表している。 https://line.me/ja/terms/policy/ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザーのパーソナルデータについては、プライバシーポリシーに基づき取得している。パーソナルデータの取得場面および取得する情報の内容は、次のとおり。 ①端末操作を通じてユーザーが入力する場合 <ul style="list-style-type: none"> - Yahoo! JAPAN IDを取得する際に入力される氏名、住所、電話番号等の登録情報 ②ユーザーから直接または書面等の媒体を通じて提供される場合 <ul style="list-style-type: none"> - ユーザーから送付される本人確認書類等に記載されたパーソナルデータ ③ユーザーによるサービス等の利用・閲覧に伴って自動的に送信される場合 <ul style="list-style-type: none"> - Yahoo! JAPANのウェブページへのアクセスに伴って送信されたIPアドレス - Yahoo! JAPANのウェブページの閲覧履歴 - Yahoo! JAPANの検索機能を利用する際に入力された検索キーワード - Yahoo! JAPANのショッピングサービスでの購買履歴 - Yahoo!防災速報、Yahoo!天気、Yahoo! MAP等をインストールされている端末の位置情報（ユーザーの利用端末の設定が有効になっている場合） - Yahoo! JAPANの広告主や広告配信先等のウェブページやアプリに設置されたウェブビーコン等により取得するユーザーの利用端末を識別するための情報等 ④第三者から情報の提供を受ける場合 <ul style="list-style-type: none"> - Yahoo! JAPAN以外の第三者が取得した情報の提供を受けることで、パーソナルデータとして取得する場合がある。 - 上記は当社のプライバシーセンター（https://privacy.yahoo.co.jp/）の「パーソナルデータの取得」においてユーザーに対して詳細を説明している。 ※「サービス等」とは、サービス、商品、広告、コンテンツを指します。なお、サービス等は、パートナー向けおよびご本人以外のお客様向けのサービス、商品、広告、コンテンツを含む。
1-2.	<p>取得情報の加工・分析・利用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Appleがユーザーの個人データを使用するのは、個人データを使用する正当な法的根拠がある場合のみである。Appleは状況に応じて、ユーザーの同意に基づいて、またはユーザーとの契約を履行するため、ユーザーや他者の重大な利益を保護するため、もしくは法令を遵守するために個人データの処理が必要であるという事実に基づいて、個人データを使用することがある。また、Appleは、ユーザーの利益、権利および期待を考慮して、個人データを処理することがAppleまたは他者の正当な利益にかなうと考える場合、個人データを処理することがある。 ・サービスの強化：製品やサービスのパーソナライズ・改善。また、監査やデータ分析、トラブルシューティングなど。 ・取引の処理：ユーザーとの取引の処理 ・ユーザーとのコミュニケーション：取引やアカウントについての連絡、製品やサービスのマーケティングのための関連情報の提供等。 ・セキュリティおよび不正防止：損失防止、不正防止。児童ポルノ排除のための事前スクリーニング・スキヤニングを含む。 ・法令遵守：適用法令の遵守のための利用（Appleプライバシーポリシー https://www.apple.com/legal/privacy/jp/） 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のための当社の製品及びサービスの提供、パーソナライズ化及び改善 ・(i) 機能及びコンテンツ（ニュースフィード及び広告など）のパーソナライズ化並びに、利用者に合わせてコンテンツを推奨し、(ii) よりパーソナライズ化された、広告支援サービス（Facebookのサービス、Instagram及びMessengerを含む。）において総合的な体験を提供するために情報の連結し、(iii) それらのサービスの開発、検証及び改善といった弊社のサービスを提供及び改善するために受領した情報を利用する。 ・測定、分析及びその他のビジネスサービスの提供 ・保有する情報（訪問したウェブサイトや閲覧した広告など、利用者の当社製品外におけるアクティビティを含む）を、広告主などのパートナーが広告効果やサービス利用状況測定し、そのパートナーのウェブサイト、アプリ、サービスをどのようなタイプの人々が利用し、どのように反応しているかを分析できるようにするために使用する。これにより、広告主は、高度な透明性及び測定にかかると同時に、より効果的な広告予算の活用方法に関する十分な情報に基づく意思決定が可能となる。 ・安全性、健全性及びセキュリティの促進 ・保有する情報を、アカウントとアクティビティの認証、悪質な行為への対処、スパムなどの問題の検知と防止、当社製品の保全維持、当社製品の内外における安全とセキュリティの推進のために利用する。 ・公益目的のための研究及びイノベーション ・一般社会福祉、技術進歩、公共の利益及び健康と福祉といったトピックに関する研究及びイノベーションの実施及び支援を目的として、受領した情報（当社と協働する選り抜かれた研究パートナーからの情報など）を利用する。例えば、弊社は救助活動を支援するために、災害発生時の避難行動パターンに関する情報を分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの提供 ・ユーザーの情報を、サービスを提供するために使用する。たとえば、検索キーワードを処理して結果を表示するため、ユーザーの連絡先から共有相手の候補を表示してコンテンツを共有しやすくするためなどに使用する。 ・サービスの維持、向上 ・ユーザーの情報を、サービスを意図したとおりに稼働させるために使用する。たとえば、障害事例を追跡するため、あるいは報告をいただいた問題の解決に取り組むために使用する。また、ユーザーの情報を、Google のサービスを向上させるために使用する。たとえば、特にスペルミスの多い検索キーワードを把握し、各種サービスでのスペルチェック機能の向上に役立てる。 ・新しいサービスの開発 ・既存のサービスで収集した情報を、新しいサービスの開発に役立てる。たとえば、Picasa (Google の最初の写真アプリ) でユーザーがどのように写真を整理するかを把握したことが、Google フォトの設計とサービス開始に役立った。 ・コンテンツや広告など、カスタマイズしたサービス提供 ・Googleのサービスを個々のユーザーに合わせてカスタマイズするために、収集した情報を使用する。たとえば、おすすめの情報を表示する、カスタマイズしたコンテンツを表示する、カスタマイズした検索結果（https://policies.google.com/privacy?hl=ja#footnote-customized-search）を表示するなど目的で使用する。 ・パフォーマンス測定 ・Google のサービスがどのように利用されているかを把握するために、分析や測定のためのデータを使用する。たとえば、Google のサイトへのユーザーのアクセスに関するデータを分析して、サービス デザインの最適化などに役立てる。また、広告主が広告キャンペーンの効果を把握できるように支援するために、ユーザーが操作した広告に関するデータを使用する。 ・ユーザーの皆さまとのコミュニケーション ・Google、Google のユーザー、一般の人々の保護 ・Googleは、収集した情報をGoogleのサービスの安全性と信頼性（https://policies.google.com/privacy?hl=ja#footnote-safety-reliability）を向上させる取り組みに使用する。こうした取り組みには、Google、Google のユーザー、もしくは一般の人々に害を及ぼすおそれのある不正行為、不正使用、セキュリティリスク、または技術的な問題の検知、防止、対応などがある。 	<p>取得した情報は、必要に応じて加工・分析した上、以下のような目的で利用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①サービスの提供・維持 <ul style="list-style-type: none"> ・ログイン時の認証 ・メッセージの送信 ・ユーザーへの連絡 等 ②当社サービスやコンテンツの開発・改善 <ul style="list-style-type: none"> ・サービス利用に関する統計の作成 ・ユーザーの購入履歴からトレンドを把握して新規サービスの開発を行う ・サービスの利用状況を基に画面デザイン等の改善を行う 等 ③セキュリティ・不正利用の防止 <ul style="list-style-type: none"> ・利用規約違反、不正アクセスなど、不正利用の有無の確認 ・不正利用が発生した場合のユーザーへの連絡 等 ④ユーザーに最適化されたコンテンツの提供 <ul style="list-style-type: none"> ・ユーザーが購入したスタンプと関連する他のスタンプを推薦する ・ユーザーのサービス利用状況等を基に広告を配信する 等 <p>取得情報の利用状況の詳細は、プライバシーポリシーに記載し、公表している。 https://line.me/ja/terms/policy/</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・取得したパーソナルデータをサービス等の提供（ユーザーからの問い合わせへの対応、ユーザーへのお知らせ、適切かつ安全なサービス等の提供のための不正対策を含む）、改善や新たなサービス等の検討、サービス等のご利用状況等の調査・分析に利用する。具体的には次のとおり。 ①ログイン時の認証 ②パーソナライズ <ul style="list-style-type: none"> ・個々のユーザーに最適なコンテンツをはじめとするサービス等を提供する場合（おすすめの商品やサービス等を表示したり、案内したりする場合を含む）に、ユーザーの居住地域、性別、生年月等の情報や、ユーザーのサービスの利用履歴（検索キーワード、閲覧されたウェブページ、利用されたアプリ、購入された商品等）を分析して、Yahoo! JAPAN独自の基準で推定したユーザーの興味関心に関する情報を利用する。 ③サービス等の改善・新たなサービス等の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ユーザーが、どのような場所から、どのようにサービス等を利用したのかという情報をもとにユーザーのサービス等に対するニーズを分析して、サービス等の改善や新たなサービス等の検討をするために、ユーザーの居住地域、性別、生年月等の情報や、ユーザーのサービス等のご利用履歴（検索キーワード、閲覧されたウェブページ、ご利用になったアプリ、購入された商品等）を利用する。 ④広告の表示 <ul style="list-style-type: none"> ・個々のユーザーのニーズに即した、より適切な広告が表示されるように、ユーザーの居住地域、性別、生年月等の情報を利用し、また、ユーザーのサービス等の利用履歴（検索キーワード、閲覧されたウェブページ、利用されたアプリ、購入された商品、位置情報等）や提供を受けた情報を分析してYahoo! JAPAN独自の基準で推定したユーザーの興味関心に関する情報を利用する。※複数の環境（端末、アプリ、ブラウザ等）の情報を活用する場合がある。 ⑤入力補助等 ⑥本人確認等 ⑦問合せ対応 ⑧代金請求 ⑨お知らせ等の連絡や送付 ⑩位置情報と連動したサービス等の提供 <ul style="list-style-type: none"> ・Yahoo!カーナビでルート案内をしたり、Yahoo! MAPでユーザーの現在地を表示したりする場合に利用する。また、ユーザーが現在いる地域の災害に関する情報をタイムリに提供するなど、サービス等の提供に不可欠な場合のほか、ユーザーにより層快適にサービス等を利用いただくために利用する。 ⑪メールの解析による便利機能の提供、広告の最適化 <ul style="list-style-type: none"> ・Yahoo!メールで送受信されるメールを機械的に解析した結果を利用し、より便利にYahoo!メールを使うための機能を提供したり、ユーザーの関心と関連性が高いと判定された広告やお知らせを配信したりしている。 ⑫迷惑行為・不正利用の対策 ⑬企業や自治体での統計データの活用 ⑭通信環境改善 ⑮利用状況等の調査・分析 <ul style="list-style-type: none"> ・サービス等の利用者数やYahoo! JAPANやパートナーが配信する広告の閲覧数、クリック数等を調査・分析するために、ユーザーによるサービス等の利用履歴を利用する。

社名	Apple Inc.	Facebook Japan株式会社	Google LLC	LINE株式会社	ヤフー株式会社
1-3. 利用者情報の第三者提供の状況	<p>・Appleは、Appleを代理して行動するサービスプロバイダと、当社のパートナーと、またはお客様の指示を受けてその他の第三者と、個人データを共有することがある。また、Appleは第三者自身のマーケティングを目的として第三者と個人データを共有することはない。</p> <p>・サービスプロバイダ：サービスプロバイダとして特定のタスク（製品の顧客への配達など）を行う契約を結んだ第三者。本プライバシーポリシーに準拠し、Appleの指示に従って個人データを取り扱う義務を負う。Appleが提供する個人データを自らの目的のために使用することはできず、Appleの要請実行後は個人データを削除または返却する。</p> <p>・パートナー：サービス・製品を提供するための連携先。</p> <p>・アフィリエイト：パフォーマンスCookieが、ユーザーがアフィリエイトサイトからAppleのウェブサイトへアクセスし、製品を購入したりサービスを利用したことを、その詳細を含めアフィリエイトに知らせる。個人を特定できる情報は収集せず、収集した情報は集計するため、匿名性が保たれている。</p> <p>・その他：ユーザーの同意を取得した場合など</p> <p>(Appleプライバシーポリシー (https://www.apple.com/legal/privacy/jp/)、AppleによるCookieの使用について (https://www.apple.com/jp/legal/privacy/jp/cookies/))</p>	<p>利用者の情報を他者に販売しておらず、今後も販売しない。また、パートナーに対しては、当社が提供するデータの利用と開示方法について厳しい制約を課している。情報を共有する外部パートナーの種類は次のとおり。</p> <p>・当社の分析サービスを利用するパートナー</p> <p>・個人または事業者が自身の投稿、リスティング、ページ、動画、その他Facebook製品内外のコンテンツに対する人々の反応を把握できるように、集約した統計やインサイトを提供する。</p> <p>・広告主</p> <p>・広告を見た人のタイプや広告の効果についてのレポートを広告主に提供しているが、利用者が許可する場合を除き、利用者を特定する情報(利用者への連絡や特定につながる利用者名やメールアドレスなどは共有しない。例えば、利用者のデモグラフィック情報や趣味・関心に関する一般的な情報(例えば、広告を見た利用者は、マドリッドに住んでいる25〜34歳の女性で、ソフトウェアエンジニアリングに関心があるといった情報)を、ターゲット層を把握するために役立たせる目的で広告主に提供している。また、どのFacebook広告が購入やアクションにつながったかを確認し、広告主に知らせる。</p> <p>・効果測定を行うパートナー企業</p> <p>・利用者に関する情報を、当社パートナーに分析や測定のレポートを提供する目的で、データ集計を行う企業と共有する。</p> <p>・当社製品で商品およびサービスを販売するパートナー</p> <p>・利用者が有料コンテンツの受信を申し込むが、当社製品内で販売されるものを購入する場合、当該コンテンツのクリエイターや販売者は、利用者の公開情報や他の共有情報、および取引完了に必要な情報(配達先や連絡先情報など)を受信する。</p> <p>・ベンダーとサービスプロバイダー</p> <p>・当社は、技術インフラサービスの提供、当社製品の利用状況の分析、カスタマーサービスの提供、決済の代行、アンケートの実施などにより当社の事業を補助するベンダーとサービスプロバイダーに、情報とコンテンツを提供する。</p> <p>・研究機関や教育機関</p> <p>・法執行機関や法的要請</p>	<p>ユーザーは、Googleのサービスを利用するときに、下記の内容が明記されたプライバシーポリシーに同意の上で、利用を開始する。下記プライバシーポリシー該当箇所を参照。</p> <p>Googleは、以下の場合を除いて、ユーザーの個人情報をGoogle以外の企業、組織、個人と共有することはない。</p> <p>・ユーザーの同意を得た場合</p> <p>・ユーザーの同意を得た場合に、Google以外の者と個人情報を共有する。機密性の高い個人情報 (https://policies.google.com/privacy?hl=ja#footnote-sensitive-info) を共有する場合は、ユーザーに明示的な同意を求める。</p> <p>・外部処理の場合</p> <p>・Googleの関連会社およびその他の信頼できる企業または個人に対し、個人情報をGoogleのために処理させる目的で当該個人情報を提供する。その場合、当該関連会社、企業、または個人は、Googleの指示に基づきGoogleのプライバシーポリシーならびにその他の適切な機密保持およびセキュリティの方策に従って当該処理を行う。たとえば、Googleではカスタマーサポートの提供をサービスプロバイダーに委託することがある。</p> <p>・法律上の理由の場合</p> <p>・個人を特定できない情報 (https://policies.google.com/privacy?hl=ja#footnote-info) を公開する、またはGoogleのパートナー(サイト運営者、広告主、デベロッパー、権利者など)と共有することがある。たとえば、Googleサービスの一般的な利用傾向がわかる (https://policies.google.com/privacy?hl=ja#footnote-trends) 情報を公開する。また、特定のパートナー (https://policies.google.com/privacy?hl=ja#footnote-specific-partners) に、広告および測定の目的でパートナー自身のCookieや類似の技術を使用してユーザーのブラウザまたはデバイスから情報を収集することを許可している。</p> <p>・Googleが合併、買収、または資産譲渡の対象となった場合、引き続きユーザーの個人情報の機密性が保持されるよう取り計らい、個人情報が譲渡される前、または別のプライバシーポリシーの適用を受けるようになる前に、対象のユーザーに通知する。</p>	<p>・ユーザーから同意を取得して利用者情報を第三者提供する場合がある。例えば、他社のアプリでユーザーがLINEアプリ内で設定したプロフィール情報を利用する必要がある場合、ユーザーの同意を取得した上、当該情報を提供している。</p>	<p>・ユーザーの同意を得て提供する場合がある。</p> <p>・また、プライバシーポリシーに定める範囲に限定して、パーソナルデータを第三者に提供させていただくことがあるが、実際にパーソナルデータを第三者に提供する際には、法令に基づく場合または別途ユーザーの同意を得る場合を除き、氏名や住所等の直接特定の個人を識別できる情報や、要配慮個人情報等を除外した上で提供する。</p>
1-4. 広告ビジネスモデルへの利用者情報の活用状況	<p>・Appleの広告プラットフォームはユーザーを追跡しない。</p> <p>・AppleのAppから収集したユーザーやデバイスのデータを、他社製Appから収集されたユーザーやデバイスのデータと組み合わせるターゲティング広告または広告測定のために使用しない。</p> <p>・AppleのAppから収集したユーザーやデバイスのデータをデータブローカーと共有しない。</p> <p>・コンテキスト情報：広告を提供するために、以下のコンテキスト情報を使用する。広告は、複数のユーザーから集約して作成するセグメント情報に基づき提供し、個人を特定して提供しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> - デバイスの情報 - デバイスの場所 - App Storeでの検索 - Apple Newsと“株価” <p>・Appleは、個人を特定できる情報は他社と共有しない。Appleは、Appleと連携してAppleの製品およびサービスを提供したり、マーケティングに協力したり、Appleの代わりに広告を販売したりする戦略的パートナーに、個人を特定しない情報を提供する義務を負っている。</p> <p>・Apple Payの取引や「ヘルスケア」Appのデータに、Appleの広告プラットフォームがアクセスしたり広告目的に使用したりすることはない。</p> <p>・Appleは、ユーザーの性的指向、宗教的信条、または支持政党に関する情報には関知せず、広告主にも提供しない。</p> <p>・App StoreまたはApple Newsにデバイスの位置情報へのアクセスを許可した場合、Appleの広告プラットフォームは、App StoreとApple Newsで地理的にターゲットされた広告を表示するためにデバイスの現在地を使用することがある。※ユーザーは位置情報の提供を拒否設定できる。</p> <p>・Appleの広告プラットフォームは、個人情報を使用して、パーソナライズされた広告を配信する。※ユーザーは「パーソナライズされた広告」をオフにして、Appleに個人情報を広告ターゲティングに使用させないことができる。</p> <p>(Appleの広告とプライバシー (https://support.apple.com/ja-jp/HT205223))</p>	<p>・広告やクーポンなどの利用者に表示するスポンサーコンテンツを選定およびパーソナライズする目的で、利用者に関して当社が保有する、利用者の趣味・関心、アクション、つながりなどの情報を利用する。</p> <p>・利用者の個人データを広告主に販売することはない。また、利用者の明確な許可を得ずに、利用者を直接特定できる情報(氏名、メールアドレスまたは他の連絡先情報など)を広告主と共有することもない。その代わりに、広告主は自社の広告の配信を希望するオーディエンスの種類などを当社に知らせることができ、当社は興味を持ちそうな人にその広告を配信する。</p>	<p>Googleはユーザーから共有されたデータをもとにGoogleのサービスを提供、維持、改善し、新しいサービスを開発している。ユーザー自身によるプライバシー管理によって、パーソナライズされたコンテンツ、広告を含めたサービスの提供に利用することができるようになる。Googleアカウントにサインインし、アクティビティ管理のページから、ウェブとアプリのアクティビティをオンにすると、Googleはユーザーに対しパーソナライズされた広告をユーザーの関心に基づき示すことがある。例えば、「マウンテンバイク」と検索すると、ユーザーはGoogleから提供された広告を表示するサイトを見るときスポーツ用品の広告を目にするかもしれない。Googleがユーザーに広告を出すために利用する情報は、広告設定 (https://adssettings.google.com/authenticated) からユーザー自身で管理することができる。また、ユーザーは広告主からの情報に基づいてパーソナライズ広告を目にするかもしれない。例えば、広告主のサイトで商品を購入したのであれば、広告主はサイトを訪問した情報を利用して広告を表示することができる。データが広告においてどのように収集、利用されるのかについては下記のリンクを参照。</p> <p>プライバシーポリシー (https://policies.google.com/privacy?hl=ja#whycollect)</p> <p>パーソナライズド広告 (https://support.google.com/adspolicy/answer/143465?p=privpol_p13nad&visit_id=637545784792993386-2692730420&rd=1)</p> <p>広告が表示される理由 (https://support.google.com/ads/answer/1634057?p=privpol_whyad&visit_id=637545784792993386-2692730420&rd=1)</p>	<p>・ユーザーにより最適化した広告を配信するために利用者情報を利用して、例えば、ユーザーのスタンプ等の購入履歴、よく利用する当社サービス、検索履歴等の情報を利用して広告を配信することがある。</p>	<p>ユーザーにより適切な広告を表示するために、ユーザーから取得した以下のようなパーソナルデータを利用して広告などを配信している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Yahoo! JAPAN IDの登録情報 ・生年月、性別など ・広告配信時に取得する情報 ・時間帯、おおまかな現在地、広告が表示されるページ、広告表示時に検索していたキーワードなど ・広告配信前に取得した過去の履歴 ① Yahoo! JAPANサービスの利用履歴 ・過去に検索したキーワード、閲覧したウェブページや広告、利用したアプリ、購入した商品、利用時間帯、地域、デバイスなど ② 広告主やパートナーサイトの利用履歴 <p>※人種、宗教、性的指向、健康状態など、慎重に扱うべき個人に関するデータは利用しない。</p>
1-5. 利用者情報のプロフィール・セグメント化状況	<p>・Appleが提供する広告は、ユーザのプライバシーを尊重しながら、App、製品、サービスに出会うお手伝いをする。Appleの広告プラットフォームは個人情報を保護するように設計されており、Appleがどのように個人情報を使うかをユーザーが決定できる。Appleの広告プラットフォームは、個人を特定できる情報は他社と共有しない。</p> <p>(Appleの広告とプライバシー (https://support.apple.com/ja-jp/HT205223))</p> <p>・似たような特徴を持つユーザーをグループにまとめてセグメントを作成し、これらのグループを使用してターゲット広告を配信する。ユーザーの利用者情報は、割り当てられるセグメントおよび配信する広告を決定するために使用される場合がある。プライバシーを保護するため、ターゲット広告は5,000人以上のユーザーがターゲット基準に該当する場合のみ配信される。セグメントに割り当てられるために、以下のような情報が使用される場合がある。</p> <p>・アカウントの情報：Apple IDアカウントに登録された名前、住所、年齢、デバイス、名前や敬称などの情報を、性別を推測するために使用する場合がある。</p> <p>・ダウンロードまたは購入した項目とサブスクリプション：ダウンロードした音楽、映画、ブック、テレビ番組、Appと、App内の課金およびサブスクリプション。App Storeから特定のAppをダウンロードしたことや、App Storeからの特定のApp内での課金(サブスクリプションを含む)に基づくターゲティングは、当該Appのデベロッパによる場合のみ許可される。</p> <p>・Apple Newsと“株価”：閲覧した記事のトピックやカテゴリのほか、フォロー、登録、または通知するように設定している出版物。</p> <p>・広告：Appleの広告プラットフォームによって配信された広告に対する操作。</p> <p>・ユーザーは、自身のセグメント情報を確認可能。</p>	<p>・保有する情報を、機能とコンテンツのパーソナライズ、当社製品の内外における利用者へのおすすめの表示を含め、当社製品を提供するために利用する。</p> <p>・利用者に合わせて関連性の高いパーソナライズ製品を作成するために、利用者などから取得および認識したデータに基づく利用者のつながり、嗜好、関心、およびアクティビティを利用する。また、利用者の当社製品の利用状況ならびに当社製品に対する反応、および利用者が当社製品の内外でつながりを持ち関心を抱いている人、場所、物についても同様に利用する。</p>	<p>・Googleは収集した情報を、パーソナライズド広告に同意するユーザーにおいて、おすすめの提供、コンテンツのパーソナライズ化、検索結果のカスタマイズを含めたGoogleのユーザーのためのサービスをカスタマイズするために利用する。セキュリティ診断のツールでは、利用するGoogleの製品ごとにセキュリティ設定のヒントを提供している。</p> <p>・ユーザーの設定によって、ユーザーは関心に基づいたパーソナライズド広告を目にする可能性がある。例えば、「マウンテンバイク」と検索すると、ユーザーはGoogleから提供された広告を示すサイトを見るときスポーツ用品の広告を目にするかもしれない。ユーザーは広告設定 (https://adssettings.google.com/authenticated) より管理することが可能。広告設定のページにおいて、ユーザーには以下の点が通知されている。「広告は、Googleアカウントに追加された個人情報、Googleのサービスを利用して広告主から提供されるデータ、Googleが推定した興味/関心に基づいて表示されます。」</p> <p>・ユーザーは、人種、宗教、性的指向、健康のようなセンシティブな情報に基づいてパーソナライズド広告が示されることはない。また、名前やメールアドレスのようなユーザーを個人的に特定する情報をユーザー本人の求めがない限り広告主に共有しない。</p> <p>詳細については、下記参照。</p> <p>プライバシーポリシー (https://policies.google.com/privacy#whycollect)</p> <p>パーソナライズド広告 (https://support.google.com/adspolicy/answer/143465?p=privpol_p13nad&visit_id=637545784792993386-2692730420&rd=1)</p>	<p>・ユーザーの登録情報やサービス利用履歴等の情報を基に、ユーザーの興味関心や属性を推定・分類した上、コンテンツの推薦や広告配信に利用している。</p>	<p>・個々のユーザーに最適なコンテンツをはじめとするサービス等を提供する場合(おすすめの商品やサービス等を表示したり、ご案内したりする場合を含む)に、ユーザーの居住地域、性別、生年月等の情報や、ユーザーのサービス等のご利用履歴(検索キーワード、閲覧されたウェブページ、ご利用になったアプリ、購入された商品等)を分析して、Yahoo! JAPAN独自の基準で推定したユーザーの興味関心に関する情報を利用する。</p>

社名	Apple Inc.	Facebook Japan株式会社	Google LLC	LINE株式会社	ヤフー株式会社
2. 利用規約・プライバシーポリシー					
(1) プライバシーポリシー等					
2-1. 利用者情報の取扱いに係るプライバシーポリシーの内容	<ul style="list-style-type: none"> Appleプライバシーポリシー (https://www.apple.com/legal/privacy/jp/) <ul style="list-style-type: none"> 階層構造 <ul style="list-style-type: none"> - PDF版もあり (https://www.apple.com/legal/privacy/pdfs/appleprivacy-policy-jp.pdf) - Data & Privacy (https://www.apple.com/jp/legal/privacy/data/) <ul style="list-style-type: none"> - 個々のサービスで取り扱う個人データの説明 - 上記「Apple プライバシーポリシー」の「Appleがお客様から収集する個人データ」で引用。 - プライバシー概要 (https://www.apple.com/jp/privacy/) <ul style="list-style-type: none"> - ユーザー向けの簡略版。アイコンを使用してわかりやすくしている。 - プライバシー機能 (https://www.apple.com/jp/privacy/features/) <ul style="list-style-type: none"> - Safari やマップ等のApple のサービスが備えている、プライバシー保護機能を説明。 - プライバシーコントロール (https://www.apple.com/jp/privacy/control/) <ul style="list-style-type: none"> - プライバシー設定の方法を説明 	<p>データポリシーにおいて、「弊社が取得する情報の種類」、「弊社が取得した情報の利用目的」、「情報の共有方法」、「ポリシー変更の際の通知方法」等の項目について説明している。</p> <p>詳しくは、https://www.facebook.com/privacy/explanation参照。</p>	<p>プライバシー ポリシーについて、できるだけわかりやすく伝えられるよう、具体例、説明動画、主な用語の定義を提示している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 利用者情報の取扱いを定めたプライバシーポリシーを策定・公表している。 プライバシーポリシーには、取得する情報、利用目的、情報を第三者提供する場面及びユーザーの権利等を規定している。 https://line.me/ja/terms/policy/ プライバシーポリシーの内容などをわかりやすく説明するための「プライバシーセンター」を開設・公表している。 https://linecorp.com/ja/privacy/ 個別サービス・機能等において別途のポリシー・規約を策定・公表している場合もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 当社においては、ユーザーとの契約の具体的な内容となる文書である利用規約の中で、プライバシーポリシーを規定している。これは、プライバシーポリシーがユーザーとの約束であり、その内容が当社の債務になるとの位置づけを明確にするものである。内容は「第2章 プライバシーポリシー」(https://about.yahoo.co.jp/common/terms/chapter1/#cf2nd)のとおり。 ※なお、このプライバシーポリシーについて、ユーザーにとってより分かりやすく情報提供することを目的として、当社ではプライバシーセンターというページを用意しており、同センターにおいて、パーソナルデータの取得、パーソナルデータの活用、およびパーソナルデータの連携について、それぞれ詳細を説明している。
2-2. サービス利用開始前の利用者への示し方、通知/同意取得の方法（導線及び掲載場所）	<ul style="list-style-type: none"> プライバシーポリシーに加えて、ユーザーの個人情報の使用を必要とする製品および特定の機能については、データとプライバシー情報を埋め込む形で提供している。この製品固有の情報は、データとプライバシーのアイコンと一緒に表示される。該当の機能を有効にする前には、こうした製品固有の情報を確認する機会が設けられる。また、この情報は、該当の機能に関連する「設定」や、オンライン(apple.com/jp/legal/privacy)でいつでも確認することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> サービスの利用者が自らの個人データがどのように利用されているかに関する十分な情報を確実に受領し、また、当社と共有する情報を精査及び管理するための権限を確実に付与されるようにするための多くの方法を利用している。これにより、利用者は、当社のサービスへの登録及びエンゲージメントの選択において、十分な情報に基づいた意思決定が可能となる。 当社による個人データの収集及び利用に関するすべての利用者への十分な通知を担保するために、すべての見込利用者には最初の登録前に当社のデータに関するポリシーが提示される。利用者は、登録時に、関連するサービス利用規約、データに関するポリシー及びCookieに関するポリシーを確認及び同意するよう求められる。登録が完了した利用者は、ほぼすべてのFacebookのサービスウェブページから、Instagramウェブサイト並びにFacebookのサービス及びInstagram上のアプリ内メニュー経由で、データに関するポリシーへ容易にアクセス可能となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ユーザーがGoogleアカウントを作成する際、プライバシーポリシーへのリンクとプライバシーに関する選択肢、及びアカウント作成の流れ自体に関する明確な説明が示される。ユーザーはアカウント作成後いつでもプライバシーポリシーにアクセスしたり、設定を変更することができる。 アカウント設定の流れには、プライバシーポリシーの概要も含まれる。したがって、新たなアカウントを作成するすべてのユーザーがプライバシーポリシーの概要を閲覧することとなる。この方法は、プライバシー監視機関（ICO）を含むデータ保護当局との協議を経て採用された。 アカウント作成の流れの最後に、ユーザーは、利用規約への同意を示すボックスとは別の、「上述の [すなわち、ユーザーが選択した設定による] ユーザー情報の処理」に対する同意を示すチェックボックスにチェックすることを求められ、アカウント作成プロセス終了前にさらにプライバシーポリシーの説明が示される。 アカウント作成時には、ユーザーにいくつかのプライバシー設定が提示され、特定の処理について説明されるとともに、パーソナライズド広告への同意など、ユーザーが選択をおこなう機会が提供される。 	<ul style="list-style-type: none"> LINEアカウント開設時に利用規約とプライバシーポリシーを掲載し、ユーザーの同意の上、アカウントを開設することとしている。 当社Webサイト又はLINEアプリ内からプライバシーポリシーの内容を確認することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> Yahoo! JAPAN ID取得時の導線 Yahoo! JAPAN ID取得時に掲出される約款に利用規約（プライバシーポリシーを含む）が含まれており、これらに承諾いただいた上でID登録いただいている。 サービス利用時の導線 約款としてサービスご利用時に同意いただいている。掲出場所はサービスにより異なるが、サイト下部（フッタ部分）やアプリ設定において利用規約（プライバシーポリシーを含む）およびプライバシーセンターへのリンクを掲出している。
2-3. 変更に関する通知/同意取得の方法	<ul style="list-style-type: none"> 重大な変更があった場合、変更の少なくとも1週間前までにプライバシーポリシーが掲載されているサイトに通知を公開し、ユーザーのデータをAppleが保有している場合は変更について直接連絡する。 (Appleプライバシーポリシー (https://www.apple.com/legal/privacy/jp/) の「プライバシーに関するご質問」) 	<ul style="list-style-type: none"> データポリシーに変更を加える場合、事前に利用者へ通知し、利用者が改訂後のポリシーを確認し、今後製品の利用を続けるかどうかを検討できる機会を設ける。 プライバシーセンター、プラクティスに関してフィードバックを行う機会を利用者に提供する取り組みを行っており、これは、2018年に行われた当社のデータに関するポリシーの大幅な更新の際に講じたプロセスからも明らかである。当時、データに関するポリシーの最新版を世界中の利用者に向けてリリースし、更新が確定されて利用者が更新後のポリシーへの同意を求められる前に、フィードバックを行う機会を提供した。 	<ul style="list-style-type: none"> 最終更新日時を常に表示し、旧バージョンもユーザーが参照できるようにアーカイブに保存している。 一部のサービスについてはメールで知らせるなど、重要な変更についてはより明確な方法で告知している。 ユーザーによる明示的な同意なくポリシーに基づくユーザーの権利を縮小することはない。 	<ul style="list-style-type: none"> 重要な変更にあたっては、アプリ内のバナー等に表示して周知を図っている。 必要に応じてアプリ起動時にポップアップ表示をしてユーザーから変更したプライバシーポリシーへの同意を取得する場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 重要なプライバシーポリシー等の改定にあたっては、アプリにおけるプッシュ通知に加え、全ユーザーへのメール送信など、確実に本人に通知できる方法を採用している。
2-4. 利用開始後（最初の同意・通知後）における、定期的な通知等の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 該当の機能を有効にする前には、こうした製品固有の情報を確認する機会が設けられる。また、この情報は、該当の機能に関連する「設定」や、オンライン(apple.com/jp/legal/privacy)でいつでも確認することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> プライバシーセンター：新規及び既存利用者は、自らの情報がどのように共有されるかを管理するために、自らが使用することのできる機能及び設定を段階的に学習するツアーに参加することができる。新たな利用者は全員、プライバシーセンターに参加するよう促される。 プライバシーセンター：Facebookのサービスのほぼすべてのページの上部からアクセスできるプライバシーセンターというメニュー画面を提供している。プライバシーセンターでは、利用者はわずか数回のタップで自身のデータを管理できる。このメニュー画面上では、個人情報の管理方法（例：利用者は共有している内容の確認及び必要な場合の削除が可能）や閲覧する広告の管理、自身の投稿及びプロフィール情報を閲覧可能な相手の管理についてより深く学べるわかりやすい説明を表示している。 https://www.facebook.com/help/395495000532167/?ref=share https://www.facebook.com/ads/about/?entry_product=privacy_shortcuts プライバシー基本ガイド：教育ツールのプライバシー基本ガイドは、プライバシーに関するさらなる情報を利用者に提供しており、FAQ機能の人気トピックも含まれている。 ヘルプセンター：当社は、広範囲にわたるトピックを検索可能なヘルプセンターを公開している。ここでは、当社のサービスの流れや利用者による管理に関する詳細情報が提供されています。 アカウント設定：全ての利用者は、自身のアカウント設定内でプライバシー関連の設定及び管理に容易にアクセスすることができる。 プライバシー設定の確認：プライバシー設定の確認ツールでは、利用者はデータ共有範囲に関する自身の選択を確認することができる。このツールは利用者の重要なプライバシー関連の設定に関するリマインダーの役割を果たし、利用者に自身が選択した内容を維持するか又は更新するかについて評価するよう促す。 全体公開投稿リマインダー：利用者が友達のみとの共有ではなくコンテンツを一般公開する意図があるかを確認するために、当社は、利用者がコンテンツを一般公開するという選択を行う前に、短い通知を利用者に送る。 Facebookヒント：さらに、利用者に対して、ヒントを通じてFacebookのサービス上での管理の活用や個人情報の保護に関する啓発を定期的に行っている。ヒントは利用者のニュースフィードに表示され、世界中の利用者が自身に合ったかたちでFacebookのサービスを利用できるようにするためにパーソナライズされるものとして製品内に組み込まれているものである。ヒントは利用者のアカウントを安全に保つ方法からFacebookのサービス上での個人情報の管理及び保護、そして友達との交流の新たな方法まで広範なトピックを扱っている。 	<ul style="list-style-type: none"> Googleアカウントに保存される情報を管理し、プライバシーとセキュリティの設定を見直し、かつ、自身の意向に合わせて調整することを、ユーザーに推奨している。アカウントの作成の最後の段階において、ユーザーは、アカウントのカスタム設定に関する通知を受け取りたいかどうかに関して、チェックボックスで選択することができる。 ヘルプページや、サイバーセキュリティ月間やセーフティセンターネットワーク等に合わせて取り組みなどを通じて、ユーザーへの周知を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 2-3のとおり、重要な変更があった場合にはユーザーにわかりやすい方法での周知を図っている。 今後もよりユーザーにわかりやすい形で変更を知らせよう、努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 直近では2020年7月、株式会社2020がグループ企業とのデータ連携の対象として追加されることを知らせる電子メールにおいて、当該データ連携に関する設定に関して現在のユーザーの設定の確認のお願いを実施している。今後については、ユーザーのデータの取り扱いに関する設定について、確認をお願いするための電子メールを定期的に送信することなどの取り組みを拡大していく予定。

社名	Apple Inc.	Facebook Japan株式会社	Google LLC	LINE株式会社	ヤフー株式会社
(2) 透明性確保のための工夫					
2-5. 利用者情報の取扱いを分かりやすくするための工夫、工夫や対処（利用者への働きかけや情報提供、ユーザーテストの実施等）	<ul style="list-style-type: none"> ・2-1 のとおり、Appleプライバシーポリシーに加えて、「プライバシー概要」「プライバシー機能」「プライバシーコントロール」等を掲載。 ・データとプライバシーのアイコンについては、2-2 参照。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年7月にホワイトペーパー「Communicating About Privacy」を発表して以来、消費者にプライバシーに関する情報を提示するためのより良いアプローチを模索するために、世界中のステークホルダーと協議を重ねながら、この課題を深く追求してきた。ホワイトペーパーでは、自分の情報がどのように使用されているかを人々に知らせるための、最良と思われるデザイン手法を幅広く紹介している。その中で明らかになったのは、すべての消費者にとって有効な、唯一の「正しい」プライバシー通知の方法はないということである。 ・他の多くの事業者と同様に、消費者がより詳細な情報を見つけられるようにリンクを張ったり、階層状のプライバシー通知を採用している。 ・ホワイトペーパーでは、より質の高い通知の開発を促進するために、業界と規制当局が協力して通知の基準を策定することや、説明責任の手段を再設計して、単に結果だけではなく、適切なプライバシー設計プロセスの遵守を求めることなどの提案も行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザーの理解を高めるため、Google のプライバシー ポリシーでは、画像やアニメーション動画及び主要なコンセプトをわかりやすくハイライトした説明を行っている。 ・プライバシーとセキュリティの設定を確認及び調整し、自動削除などのツールを利用することなど、ユーザー自身が Google アカウントに保存されている情報を管理されることを推奨している。 ・ユーザーに対してヘルプページやセーフティネットページなどに合わせた取り組みを通じて、これらを伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザーに対してプライバシーに関する意識調査を実施した上、利用者情報の取扱いについての懸念を把握し、プライバシーポリシーを読みづらいつらいつらと感ずる理由等を把握することで、データに基づいた効果的な対策を実施できるように努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーポリシーにおいてユーザーに当社のパーソナルデータの取り扱いについてのすべてを分かりやすく説明することは困難であることから、図表等を用いてその詳細を分かりやすく説明した「プライバシーセンター」をご用意し、パーソナルデータの取得、パーソナルデータの活用、パーソナルデータの連携について、それぞれ詳細を説明している。 ・利用目的については、プライバシーポリシーおよびプライバシーセンターのトップページに利用目的を掲げた上で、その利用目的の詳細については、プライバシーセンター内の「パーソナルデータの活用」のページにおいて説明している。さらに、パーソナルデータの活用のページでは、「広告の表示」等、利用の具体例として 15 の項目を掲げ、その項目ごとにどのようなデータを利用しているのか説明している。 ・このようなプライバシーポリシーおよびプライバシーセンターの内容や、同意取得にあたってユーザーへの情報提供の在り方については、法務部門が事業部門と調整の上判断し、ユーザーのプライバシーに与える影響等に応じて、さらにデータ・ディレクター (DD) 会で検討した上で、チーム・データ・オフィサー (CDO) が責任者として決裁する仕組みを導入している。 ・これらのガバナンスシステムが適切に機能していることを第三者から監視・評価を受けるための仕組みとして、外部の多様な専門家により構成されるアドバイザーボードを組織するだけでなく、加えて社内のデータ利用等に通じた者が同様に第三者的な立場から監視・評価するための仕組みとして、データ・プロテクション・オフィサー (DPO) を設置している。 ・上記のガバナンスシステムが適切に機能することを担保するための取り組みとして、プライバシー影響評価 (PIA) の試験運用を始めており、本格運用を目指して取り組みを進めている。 ・2021年上半期にユーザーアンケートの実施を計画している。
2-6. 同意取得/通知に際しての、利用規約やプライバシーポリシーを理解しやすくするための工夫（階層的アプローチ、ダッシュボード、ジャストインタイム、アイコン、モバイル及びスマートデバイスの特徴の利用等）	<ul style="list-style-type: none"> ・2-1 のとおり、Appleプライバシーポリシーで階層的アプローチ、2-2 のとおりデータとプライバシーのアイコンを採用。 ・2-1 のとおり、「プライバシーコントロール」でプライバシー設定の方法を説明。 ・データとプライバシーのページ (https://privacy.apple.com/) を用意（「プライバシーコントロール」のページにもリンクあり）。以下のこと が可能。 <ul style="list-style-type: none"> - Apple ID に紐付けてApple に保管されているデータのコピーの取得 - ユーザー自身のApple ID を一時的に無効化する。 - ユーザー自身のApple ID を削除し、当該ID に関連づけられているデータを削除する。 - 個人データの訂正を申請する。 ・ユーザーは、「iPhone解析を共有」するか否かを選べる。ON にすると、を毎日自動的に送信するようになる。(Appleに保管する個人情報の把握と管理 (https://support.apple.com/ja-jp/HT208501)) (デバイス解析とプライバシー (https://support.apple.com/ja-jp/HT210682)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・2-5のとおり、2020年7月、事業者はプライバシー設計の決定において「人」を中心に据えることで、プライバシー情報をよりよく伝える必要性を強調したホワイトペーパーを発表した。ホワイトペーパーでは、事業者、政策立案者、その他の専門家が協力し合うことの重要性も強調している。 ・当社が設立し支援する業界横断的な取り組みであるITCラボを通じて、当社はさまざまな専門家や企業と協力し、データやプライバシーの選択について人々によりよく知らせるためのクリエイティブなデザインソリューションを開発している。 ・データポリシーのデザインを変更し、より読みやすく、適切なものにした たり、「プライバシー設定の確認」のような製品内プロンプトの追加を行った り、さらには「この広告が表示されている理由」や「Facebook外のアクティビティ」などの機能を展開している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザーのエンゲージメントに影響を与えるGoogleのプライバシーポリシーの項目のうち、2018年のプライバシーポリシーの最新版を設計する際に考慮した要素は以下の通り。 ・ナビゲーションのしやすさ：明確な見出し、簡単なナビゲーション、オーバーレイなど、ユーザーが探しているものを見つけやすくするために、プライバシーポリシーを再設計・再編成した。 ・わかりやすさ：プライバシー ポリシーに、より明確な表現と詳細な説明を導入した。また、説明用の動画や図を追加し、文字による説明に加えて、よりわかりやすい視覚的な情報を提供している。 ・透明性と管理：ユーザーがプライバシー ポリシーを読んだ際に、すぐユーザーがプライバシー設定を変更できるように設定に直接アクセスできるリンクを提供することで、設定変更を容易にした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーポリシーの内容などをわかりやすく説明するための「プライバシーセンター」を開設・公表している。 ・プライバシーポリシーについては、できる限り各項目の冒頭に当該項目の概要を記載するようにしている。例えば、プライバシーポリシーの「取得するパーソナルデータ」や「パーソナルデータの利用目的」の冒頭に当該項目の概要を説明した後、詳細内容を説明するようにしている。 ・個別機能・サービスにおいて別途ポップアップで説明等を行う場合もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2-5のとおり、プライバシーポリシーにおいてユーザーに当社のパーソナルデータの取り扱いについてのすべてを分かりやすくご説明することは困難であることから、図表等を用いてその詳細を分かりやすく説明した「プライバシーセンター」をご用意し、パーソナルデータの取得、パーソナルデータの活用、パーソナルデータの連携について、それぞれ詳細を説明している。 ・お客様の情報に関する設定を一ヶ所に集約し、「プライバシー・メール配信設定」としてご提供している。 ・同意取得や重要な通知に際してはポップアップを利用するなどしてユーザーが必ず目にするよう工夫している。
(3) オプトアウト					
2-7. 利用者情報の提供を希望しない意思を示すオプトアウトの設置状況（方法、対象範囲等含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・1-1、1-4 のとおり、ユーザーは位置情報の提供を拒否設定することができる。 ・1-4 のとおり、ユーザーはパーソナライズされた広告への個人情報の利用について拒否設定することができる。 ・ユーザーは、iPhone解析情報（ハードウェアおよびオペレーションシステムの仕様に関する詳細、パフォーマンスの統計情報、および各デバイスとApp の使用状況（個人が特定されることはありません））の提供を拒否設定できる。(デバイス解析とプライバシー (https://support.apple.com/ja-jp/HT210682)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・当社のサービスは広告収入により支えられているため、パーソナライズされた広告のすべてをオプトアウトする選択は利用者に付与していない。 一方で、利用者がFacebookのサービス上で閲覧する広告をカスタマイズ及び管理できる各種のツール及び機能を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザーは、Googleアカウントを作成する際に、Googleと共有する情報を選択することができる。同時に、アカウント、プライバシー、セキュリティに関するいくつかの重要な設定管理項目が提示される。アカウント作成後も、ユーザーは、https://myaccount.google.com/ にある Googleアカウントの一括管理用ダッシュボードを通じて、いつでも Googleアカウントの設定を確認し変更することができる。このツールは、デスクトップおよびモバイルのデバイス上のあらゆるブラウザを通じて使用できる。 ・ユーザーはアカウント ダッシュボードにアクセスして、特定の設定ボタンを ON または OFF にすることができる（オプトアウトとオプトイン）。例えば、ロケーション履歴は、ユーザーがサインインしたデバイスを持って訪れた場所に関する情報をGoogleアカウント上に保存する。これは、位置情報を収集し保存する特定の手法であり、位置情報は、Googleマップ、フォト、検索を含む、Google の製品とサービスを使うにあたってユーザーに様々な利点をもたらす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者情報の第三者提供（連携）や位置情報の取得等についてオプトアウトの機能を用意し、ユーザーが連携や情報提供を停止できる手段を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Yahoo! JAPAN IDの「登録情報」において、プライバシー・メール配信設定画面を設置している。ここでは、「各アプリケーションでのデータ利用」において、外部アプリケーションのデータ利用について、「グループ企業へのデータ連携設定」において、グループ企業へのデータ連携について、「外部企業へのデータ提供設定」において、個別の外部企業へのデータ提供について、それぞれオプトアウトが可能。当該設定については、プライバシーセンターの「プライバシー設定」においても案内している。
2-8. オプトアウトをした場合のサービス利用継続の可否	<ul style="list-style-type: none"> ・2-7のオプトアウトを行ってもサービス利用継続可。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2-7参照。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザーは、これらを用いても無効にでき（オプトアウト）、無効にした後も、Google マップ、フォト、検索を含む Google の製品やサービスを使い続けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザーが他社のアプリとの連携を解除した場合や位置情報をオプトアウトした場合であっても LINE アプリの利用は継続できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザーがオプトアウトした場合であっても各サービスの利用継続は可能。 ・行動ターゲティング広告を拒否した場合でも、広告の精度が悪くなる以外にユーザーに不利益が生じることはない。
2-9. 利用者情報の提供について個別に選択できるダッシュボード等の設置状況（方法、対象範囲等含む）	<ul style="list-style-type: none"> ・2-6 のとおり、データとプライバシーのページがある。 ・2-7 のオプトアウトを、iPhoneやMacなどデバイスから設定できる。 <ul style="list-style-type: none"> - iPhone等：「設定」>「プライバシー」 - Mac：「システム環境設定」>「セキュリティとプライバシー」>「プライバシー」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「広告表示の設定」において、広告のターゲット設定に使用されるプロフィール情報、興味・関心のカテゴリ等を設定・管理することができる。 ・「この広告が表示されている理由」は、利用者が特定の広告が表示される理由の説明を確認することができる。 ・「Facebook外のアクティビティ」機能により、利用者は事業者や組織が自社アプリ又はウェブサイトの訪問、コンテンツの閲覧、及びショッピングカートへのアイテムの追加などの利用者のインタラクションに関して当社と共有しているアクティビティの概要の確認や、各自のFacebookのアカウントからの当該アクティビティの関連付けを解除することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2-7参照。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザーがLINEアプリにおける利用者情報を連携している他社のアプリについては、LINEアプリ内で連携中の他社アプリが一覧表示される画面を提供しており、当該画面内から連携解除が可能となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2-7のとおり、Yahoo! JAPAN IDの「登録情報」において、プライバシー・メール配信設定画面を設置しており、ユーザーはいつでも設定変更が可能となっている。

社名	Apple Inc.	Facebook Japan株式会社	Google LLC	LINE株式会社	ヤフー株式会社
<p>(4) データポータビリティ</p>					
<p>2-10. データポータビリティに関する取組（データポータビリティを求める方法、対象範囲）</p>	<p>・データとプライバシーのページで、「データのコピーをリクエスト」をクリックすると、当該ユーザーがApple に保存しているデータのコピーをリクエストすることができる。</p>	<p>・「個人データをダウンロード(DYI)」では、以下の2種類のデータセットが対象になっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 「あなたの情報 (your information)」：プロフィール情報、投稿、「いいね!」、コメントなど、リクエストした個人がFacebook上で入力、アップロード、共有した情報。 - 「あなたについての情報 (information about you)」：Facebookへのログイン、使用しているデバイス、ニュースフィード、ウォッチ、ニュースでの推奨を行うための情報など、リクエストした個人のFacebookアカウントに関連する情報を含む。 <p>利用者は、「設定」→「あなたのFacebook情報」を開き、「個人データをダウンロード」を選択することでリクエストを開始できる。このページでは、リクエストの対象となるデータのカテゴリの追加や削除、ダウンロードリクエストのフォーマットの選択、写真、ビデオ、その他のメディアの画質の調整、情報の特定の日付範囲の指定などを行うことができる。利用者がFacebookに参加した時期に応じて、100以上のデータカテゴリから選択することができる。</p> <p>・「データをダウンロード (Download Your Data:DYD)」には、Instagramの利用者向けに同様のカテゴリの情報が含まれている。ユーザーは、Instagramの「設定」→「セキュリティ」にアクセスし、「データをダウンロード」ツールを選択することで、Instagramデータのダウンロード要求を開始することができる。</p> <p>・2020年には、Facebookの写真や動画をGoogleフォト、Dropbox、Koofr、またはBackblazeに転送することができる「写真または動画の転送」ツールを開始した。ユーザーは、「設定」→「あなたのFacebook情報」を開き、「あなたのFacebook情報コピーを転送」を選択することで、写真やビデオの転送を要求することができる。そこから、フォトライブラリ全体または特定のアルバムを選択し、転送先を選ぶことができる。今後、新しいデータタイプや転送先の追加を予定している。</p>	<p>・Google Takeoutは、ユーザーにデータポータビリティに関する管理権限を提供している。ユーザーは、Google に保存した自身のデータの最新版コピーを自身のコンピュータにダウンロードしたり、サードパーティのプロバイダーのサイトに直接ポーティングすることができる。</p>	<p>・いわゆるデータポータビリティには対応していないが、「トーク履歴の送信」機能を利用してTextファイルでトーク履歴をダウンロード・送信することはできる。</p>	<p>・まずは電子的な手法による個人データの開示請求への対応をできるだけ早期に実現できるよう、対応を進めているところ。</p>
<p>2-11. データポータビリティが可能である場合 ・提供されるデータのフォーマット ・提供先の要件 ・インターオペラビリティ確保に関する考慮状況</p>	<p>・2-10のとおり、ユーザーは自身のデータのコピーをダウンロードすることが可能であり、それらには以下が含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> - JSON、CSV、XML またはPDF形式のスプレッドシートまたはファイルでのApp 利用やアクティビティ情報 - それぞれの原フォーマットによる文書、写真及びビデオ - VCF、ICS 及びHTML フォーマットによる連絡先、カレンダー、ブックマーク 	<p>・利用者はいつでもデータファイルを要求することができ、HTMLファイル(DYI) またはJSON (DYIおよびDYD) で受け取ることを選択することができる。HTMLは、Facebookで一般的に使用されている、見やすいデータ形式である。受領者はZIPファイルで受け取る。ZIPファイルを開いて解凍すると、「index」という名前のHTMLファイルが含まれており、WebブラウザでWebページのように開くことができる。このZIPファイルには、リクエストされた画像や動画などのファイルが入ったフォルダが含まれている。JSONは機械的に読み取り可能なデータ形式で、他のサービスに情報をアップロードする際に、より簡単に情報を転送できる可能性がある。</p> <p>・セキュリティ対策のため、情報のコピーのダウンロードを開始する前に、パスワードの再入力を求めている。また、ダウンロードの開始を許可する前に、追加の確認ステップの完了を求めていることがある。アカウント保護のため、ダウンロードリクエストは数日後に失効するが、いつでも新しいリクエストをすることができる。</p> <p>・2018年には、Apple、Google、Microsoft、Twitterと共同で、オンラインサービス間でデータを転送するための共通の方法を構築する「Data Transfer Project」への参加を発表した。このプロジェクトでは、どのようなサービスでも利用者に代わって直接転送を実行・管理することができるためオープンソースのライブラリを提供している。</p>	<p>・ユーザーは、製品、データの種類、用途に応じて選択できるさまざまな業界標準のフォーマットで、自身のデータをエクスポートできる。例えばGoogleドライブから、Googleドキュメントの文書を.docxファイルとしてエクスポートし、Microsoft Officeで簡単に使うことができる。データを複数のフォーマットでダウンロードできるようにすることで、フレキシビリティを最大化し、利用者自身のデータ活用方法の選択肢を広げている。</p> <p>・Data Transfer Project (DTP) は、プロバイダー間における直接のデータ転送を可能にする。DTPは、データポータビリティへのユーザーのアクセスを拡大するために、業界のパートナーと協力し立ち上げたイニシアチブで、どの企業も安全で拡張性のある直接データポータビリティソリューションを構築できるようにするものである。このプロジェクトは、2つの製品インターフェース間で、データを直接インポートおよびエクスポートする接続を可能にする。</p>	<p>・2-10参照。</p>	<p>・2-10のとおり、電子的な手法による個人データの開示請求への対応をできるだけ早期に実現できるよう、対応を進めているところ。</p>
<p>2-12. 個人情報保護法に基づく開示請求への対応状況（電磁的な開示の実施状況、開示請求の方法、提供フォーマット等）</p>	<p>・電磁的な開示を行っている。2-6 のデータとプライバシーのページで、「データのコピーをリクエスト」をクリックすると、当該ユーザーがApple に保存しているデータのコピーをリクエストするページに行くことができる。</p>	<p>・消費者がプライバシーに関する質問又は当社のプライバシー慣行に関する質問を行えるように様々な連絡窓口を提供している。</p> <p>・例えば、Facebook社のサービスについては、利用者及び利用者以外も専用の問い合わせ用フォームを使用してFacebook社のデータに関するポリシーについて当社まで問い合わせることができる。また、当社のデータに関するポリシーの末尾にあるTRUSTe（外部の第三者紛争解決プロバイダー）のウェブサイトへのリンクを通じて、当社と連携することもできる。当社のデータに関するポリシーには、当社にメールで連絡することを希望する利用者向けの宛名及び住所も記載されている。</p> <p>・利用者は、Facebook社のサービスに投稿されたコンテンツについて肖像に係るプライバシーに関する苦情を申し立てることができる。当社のプライバシーに関する運営の専門家チームによって受領された質問に対しては、速やかに回答がなされる。また、当社は、当社のヘルプセンターにおいて、プライバシー設定とツールに関する分かり易い説明、問い合わせ用フォームへのリンク、及びよくある質問への回答を提供している。</p>	<p>・Googleアカウントには、使用しているGoogleのサービス、メールや写真などの保存データの概要を確認できるダッシュボードがある。また、Googleアカウントには、Googleのサービス全般を通じて検索、閲覧、視聴するなどのアクティビティから収集されたデータを簡単に確認し、削除できるツールであるマイアクティビティも提供している。</p> <p>・過去のオンライン上のアクティビティを簡単に振り返ることができるよう、トピック、日付、サービスで検索できるツールが用意しており、ユーザーは「データをダウンロード」からアカウントに保存されたデータのコピーにアクセスするか、プライバシーに関するトラブルシューティングまたは Googleプライバシー ヘルプセンターからアクセス可能な「データへのアクセス権をリクエスト」のフォームを送信することができる。</p> <p>・また（上記のツールで対応できない場合で）、適用されるプライバシー関連法に基づいて利用者からの要求があった場合、デジタルフォーマットで情報を開示する。</p>	<p>【開示請求の方法】 当社Webサイト内の問い合わせフォーム又は郵送にて開示請求を受け付けている。</p> <p>【開示方法】 基本的にはユーザーへPDFを送信する方法で開示している。ユーザーが希望した場合には郵送での開示も実施している。</p>	<p>・2-10のとおり、電子的な手法による個人データの開示請求への対応をできるだけ早期に実現できるよう、対応を進めているところ。</p>

社名	Apple Inc.	Facebook Japan株式会社	Google LLC	LINE株式会社	ヤフー株式会社	
3. 他アプリやサイトを經由した情報収集の状況						
3-1.	他アプリやサイトを經由した情報収集の状況	<p>【Appleが他のソースから受け取る個人データ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人：他の個人から他のユーザーに関するデータを収集することがある（例：他の個人からユーザーに製品やギフトカードを送付、Apple のサービスやフォーラムへの参加への招待等）。 ユーザーの指示がある場合： <ul style="list-style-type: none"> ユーザーが、モバイル通信事業者に対し、アカウントのアクティベーションのためにユーザーの通信事業者アカウントに関するデータをApple と共有するように指示する場合 Appleでの購入に対するリワードを獲得できるようにロイヤルティプログラムへの参加に関する情報を共有するようにユーザーが指示したりする場合 など Appleのパートナー：セキュリティおよび不正防止の目的で、ユーザーがApple IDの作成時に提供する情報を第三者からの情報を利用して検証することがある。 (Appleプライバシーポリシー (https://www.apple.com/legal/privacy/jp/)) 	<ul style="list-style-type: none"> 広告主、アプリ開発者およびパブリッシャーは、利用しているFacebook ビジネスツール(ソーシャルプラグイン(「いいね!」ボタンなど)、Facebookログイン、当社のAPIとSDK、Facebookピクセルなど)を通じて、当社に情報を送信することができる。 上記パートナーが提供する情報には、利用者のFacebook外におけるアクティビティに関するものが含まれる。これには利用者のデバイス、訪問したウェブサイト、購入履歴、閲覧した広告、パートナーのサービスの利用状況が含まれ、利用者がFacebookアカウントを保持しているかどうか、またはFacebookにログインしているかどうかに関わらず提供される。 利用者のオンライン・オフラインアクションについて、および利用者の情報を当社に提供する権利を有するサードパーティデータプロバイダーからの購入についての情報が当社に提供される。 	<ul style="list-style-type: none"> ユーザーが同意した場合、Googleのサービスへのアクセスに使用したアプリ、ブラウザ、およびデバイスに関する情報を収集する。収集する情報には、固有 ID (https://policies.google.com/privacy?hl=ja#footnote-unique-id)、ブラウザの種類および設定、デバイスの種類および設定、オペレーティング システム、モバイル ネットワークに関する情報（携帯通信事業者名や電話番号など）、アプリケーションのバージョン番号などが含まれる。また、Googleのサービスとユーザーのアプリ、ブラウザ、およびデバイスの間の通信についての情報も収集する。たとえば、IPアドレス (https://policies.google.com/privacy?hl=ja#footnote-ip)、障害レポート、システム アクティビティ、リクエストの日時と参照 URLなど。 信頼できるパートナーからユーザーに関する情報の提供を受けることもある。たとえば、マーケティング パートナーから Googleのビジネス サービスのマーケティングサイトに関する情報の提供を受けたり、セキュリティ パートナーから不正使用防止 (https://policies.google.com/privacy?hl=ja#footnote-against-abuse) のための情報の提供を受けることがある。また、広告主から、広告やリサーチのサービスをその広告主に提供するための (https://policies.google.com/privacy?hl=ja#footnote-ad-services) 情報の提供を受けることがある。 <p>これらはずべて、プライバシーポリシーに明記している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 当社の提携事業者が運営する他アプリやWebサイトに当社の広告配信等のためのツールが設置された場合、当該アプリ・サイトを訪問したユーザーに関する情報を取得する場合があります。 	<ul style="list-style-type: none"> Yahoo! JAPANの広告主や広告配信先等のウェブページやアプリを利用した場合に、当該パートナーのウェブページやアプリにYahoo! JAPANの「ウェブビーコン」等を設置してクッキーや端末情報を参照することで、ユーザーの利用端末を識別するための情報等を取得する場合があります。
3-2.	他アプリ提供者やサイト運営者に対し、どのような同意取得や通知を促しているか	<ul style="list-style-type: none"> 「6. アプリ提供マーケット」参照。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者がパートナーのサービスを訪問、利用した場合、またはパートナーが連携する外部パートナーを通して、パートナーは利用者のデータを受け取る。これらのパートナーが当社にデータを提供する前に、パートナーが利用者のデータを取得、利用、共有する正当な権利を有していることを当社は当該パートナーに要求する。 	<ul style="list-style-type: none"> 例えばGoogle Playでは、アプリとゲームがユーザーのデバイス上でアクセスしようとするデータについて、ユーザーが十分な情報を得た上で判断できるように支援している。その一環として、以前から、デベロッパーへ、Google Playストアのアプリ一覧で、どのように個人情報収集し使用しているかを開示することを義務付けてきた。2015 年にAndroid Marshmallow を公開した時には、ユーザーがいつでも、自身のデバイスでこまめに許可を確認、付与、拒否できるランタイム権限を導入した。 	<ul style="list-style-type: none"> 他アプリやWebサイトにおいて、当社がCookie等により訪問履歴等の広告関連情報を収集し、広告の効果測定等に利用すること、およびオプトアウトの方法について通知を行うとともにユーザーから必要な同意を取得することを規約で義務づける等の対応を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 広告主のウェブサイト、アプリケーション等におけるユーザーの訪問・行動履歴情報を利用する広告商品利用時の遵守事項として、ユーザーの訪問・行動履歴情報を取得させる自身のウェブサイト、アプリケーション等において、記載項目を定め、この記載は、対象ウェブサイト等のトップ画面から1〜2回の操作で到達できる場所に記載することを求めている。 記載を求める事項の詳細は次のとおり。 (1) ヤフー株式会社を始めとする第三者の提供する広告配信サービスを利用する場合があり、その場合において、クッキー等によって当該第三者がユーザーの対象ウェブサイト等の訪問・行動履歴情報を取得、利用する可能性がある旨 (2) 広告配信サービスを提供する第三者によって収集された対象ウェブサイト等におけるユーザーの訪問・行動履歴情報が、当該第三者のプライバシーポリシーに従って利用される旨 (3) 広告配信サービスを提供する第三者の提供するオプトアウト手段により、当該第三者による対象ウェブサイト等において収集されたユーザーの訪問・行動履歴情報の広告配信への利用を停止させることができる旨 (4) ユーザーがクッキー等の設定を行うことにより、訪問・行動履歴情報が収集されることの可否を定めることが可能である旨
3-3.	JavaScriptの取扱状況（後から情報取得内容が変更されることについて、他アプリ提供者やサイト運営者にどのように伝えているか等）	<ul style="list-style-type: none"> Safariは追跡者からユーザーを保護する。インテリジェント・トラッキング防止機能が、インターネット広告から追いかけるられないようにする。ウェブサイトの中には、サイトを閲覧するあなたの行動を何百ものデータ収集会社に監視させ、ユーザーのプロファイルを作成して広告を表示するものがある。Safari のインテリジェント・トラッキング防止機能がデバイス上の機械学習を使って、追跡型広告をブロックできるようにする。 (プライバシー 概要 (https://www.apple.com/jp/privacy/)) 	(回答なし)	<ul style="list-style-type: none"> データに関してパートナーとどのようにやり取りしているのかについては、プライバシーポリシーに規定。 	<ul style="list-style-type: none"> ガイドラインや媒体資料を用いて提携事業者内に案内する運用をしている。 	情報の取得内容が変更されることはない。
3-4.	複数の他アプリやサイトから収集している場合の、情報管理状況	N/A	<ul style="list-style-type: none"> Facebookグループ企業内だけでなく、当社のパートナーや利用者が世界中でつながる共有者などの外部者とも、当社のデータポリシーに従って情報を世界規模で共有している。利用者の情報は、当社のデータポリシーに記載される目的で、米国やその他利用者の居住地以外の国に移転、転送、保存、処理される場合がある。このようなデータの移転は、Facebook利用規約およびInstagram利用規約に明記されるサービスの提供や、当社製品のグローバルな運用と利用者への提供のために必要である。標準契約条項を活用するほか、該当する場合には特定国に関する欧州委員会の十分性認定に依拠し、米国や米国以外の国へのこのようなデータの移転について利用者の同意を取得している。 	<ul style="list-style-type: none"> 収集したデータを、データの内容、データの用途、ユーザーの設定内容に応じてそれぞれ異なる一定期間保持する。 収集するデータには、ユーザーがいつでも削除できるもの（ユーザーが作成またはアップロードしたコンテンツなど）がある。ユーザーは、アカウントに保存されているアクティビティ情報も削除できる。また、一定期間後に自動的に削除されるよう設定することもできる。 その他のデータ（サーバーログ内の広告データ (https://policies.google.com/technologies/ads?hl=ja) など）は、一定期間後に自動的に削除されるか、匿名化される。 サービスの使用頻度に関する情報など一部のデータは、ユーザーがGoogleアカウントを削除するまで Google が保持する。 セキュリティ、詐欺および濫用の防止、取引記録の保持など、正当な業務上または法律上の目的のために必要に応じて他のデータよりも長期間保持するデータもある。 	<ul style="list-style-type: none"> 当社が付与したユーザーの内部識別子と関連づけて管理する場合があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 当社が取り扱うユーザー等のYahoo! JAPAN ID、パートナーのID、広告ID (Advertising Identifier (IDFA) およびGoogle Advertising Identifier (AAID) を含むがこれに限らない)、クッキーその他の各種識別子を紐づけて管理し、プライバシーポリシー記載の利用目的に利用する場合があります。

社名	Apple Inc.	Facebook Japan株式会社	Google LLC	LINE株式会社	ヤフー株式会社	
4. 他社へのデータ提供、他社との連携の状況						
4-1.	他社に対する、取得した利用者情報・位置情報に基づくデータ提供の内容、提供に関する留意点（ユーザーへの説明、他社の監督、安全管理など）	・3-1参照。	・1-3参照。	<p>Google 以外の者との個人情報共有に関する Google のポリシーは、Google のプライバシーポリシーの「ご自分の情報の共有」の項に記載されている。Google のプライバシー ポリシーは、あらゆる種類の個人情報並びに第三者にグローバルに適用される。</p> <p>以下の場合を除いて、ユーザーの個人情報を Google以外の企業、組織、個人と共有することはない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユーザーの同意を得た場合 ・1-3参照。 ・ドメイン管理者の場合 <p>Googleサービスを使用する組織の従業員または学生の場合、使用している Googleアカウントには、アカウントを管理するドメイン管理者および販売パートナーがアクセスできる。ドメイン管理者および当該販売パートナーは次のことを行うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユーザーのアカウントに保存された情報（メールなど）にアクセスし、その情報を保持すること。 ・ユーザーのアカウントに関する統計情報（ユーザーがインストールしたアプリの数など）を表示すること。 ・ユーザーのアカウントのパスワードを変更すること。 ・ユーザーのアカウントのアクセス権を一時停止または停止すること。 ・適用される法律、規制、法的手続き、または強制力のある政府機関の要請に応じるために、ユーザーのアカウント情報を受け取ること。 ・自分の情報またはプライバシー設定の削除や編集を行うユーザーの権限を制限すること。 <ul style="list-style-type: none"> ・外部処理の場合 <p>1-3参照。Googleは、個人情報にアクセスできる担当者を、その情報の処理のためにその情報を必要とする Google の社員、請負業者または業務委託先、および代理人に限定している。内部ツールへのアクセスは厳重に管理されており、システムの悪用に対してはゼロ・トレランス・ポリシーを採用している。従業員であるか否かを問わず、当該担当者はいずれも、厳格な契約上の守秘義務を負っており、当該義務を履行しなかった場合は懲戒処分または契約解除の対象となることがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法律上の理由の場合 	<ul style="list-style-type: none"> ・他社に利用者情報を提供する場合、提供する情報をわかりやすく表示した上、ユーザーから同意を取得するようにしている。また、他社にユーザーの識別子を提供する場合、安全管理の観点から、提供先の企業ごとに異なる識別子を提供するよう努めている。 ・他社に利用者情報を提供する場合、当社と他社との間で、利用者情報を保護するための契約を締結し、利用者情報が安全に管理されるよう努めるとともに、ユーザーに対して事後のオプトアウト機能を提供する等している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザーが同意した場合に限り、ユーザーへよりよいサービスを提供するために、プライバシーポリシーの範囲内でグループ企業、パートナー企業へのデータ連携を行うことについて、連携するデータの範囲、連携先に範囲等についてプライバシーセンターの「パーソナルデータの連携」の項目で説明している。 ・当社は、当社が定める基準を満たす安全管理措置を講じている第三者にのみパーソナルデータを提供する。 ・位置情報については、プライバシーセンターの「位置情報の利用について」の項目で、取得したユーザーの位置情報（端末から取得可能なGPS位置情報、Wi-Fi情報、Bluetooth情報等）をサービス等の提供（ユーザーからの問い合わせへの対応、ユーザーへのお知らせ、適切かつ安全なサービス等の提供のための不正対策を含む）、改善や新たなサービス等の検討、サービス等の利用状況等の調査、分析に利用する旨を説明している。
4-2.	利用者情報・位置情報の取得・活用に関する、他社との連携状況、連携に関する留意点（ユーザーへの説明、他社の監督、安全管理等）	・3-1参照。	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年間、データの扱い方を変更し、データへのアクセスとデータの管理に関するパートナーの責任の持ち方を変えてきた。APIへのアクセスを制限し、アプリレビューを拡張し、アプリ開発者の調査を開始した。開発者がFacebookのプラットフォームを責任を持って使用し続けるために必要なツールと情報を確実に持てるようにするため、次の4つの分野で改善を図ってきた。 ・開発者にデータの使用とシェアに関するさらに明確になったガイダンスを提供する。 ・開発者に責任を持たせるための新しいツールとコントロールをビルドする。その中には、年ごとのデータの使用状況の確認プロセスがある。このプロセスでは、開発者はFacebookプラットフォームAPI経由で自分たちがアクセスするデータのタイプをレビューし、データの使用方法がFacebookの規約とポリシーに準拠していることを確認できる。 ・開発者のエクスペリエンスを改善する。開発プロセスとアプリレビュープロセスをカスタマイズして多種多様な開発者をより良くサポートできるようにし、アプリダッシュボードを更新して必要なすべてのアクションをさらに容易に確認できるようにしてきた。 ・利用者のエクスペリエンスを改善する。アプリで利用者にポジティブなエクスペリエンスを提供するための追加のポリシーガイダンスを提供している。 <ul style="list-style-type: none"> ・最初の分野での取り組みの一環として、Facebook社のプラットフォームとツールを使用する際、データを保護し、利用者のプライバシーを尊重するという自分たちの責任を確実に事業者と開発者が明確に理解できるように、新しいプラットフォーム規約と開発者ポリシーを導入する。新たなプラットフォーム規約と開発者ポリシーは、既存のFacebookプラットフォームポリシー(Messengerプラットフォームを含む)、Instagramプラットフォームポリシー、拡張プラットフォーム製品に関する補足規約、技術提供者修正条項を簡素化し置き換えるものである。 プラットフォーム規約：プラットフォーム規約は更新され、データ利用の制限、データセキュリティ要件、規定の実施、利用規約と保証(知的財産権など)に焦点が当てられている。これは、Facebookプラットフォームで製品とソリューションをビルドする際の、開発者の権利と責任をより良く概説するのに役立つ。 プラットフォームデータの利用とシェア：更新されたプラットフォーム規約では、Facebookのプラットフォームから開発者が受け取るデータの2層構造を定義し、各層のデータをどのように利用しシェアするかに関する明確なガイダンスが提供されている。プラットフォームデータと制限プラットフォームデータというこの新しい区分は、情報開発者が利用者の明示的な同意なしに第三者とシェアできるものを制限し、利用者データのセキュリティ保護を強化する。 データの削除：データ削除に関するポリシーの要件も明確化している。開発者は、正当なビジネス上の目的のためのデータ利用の必要がなくなったらデータを削除することが求められる。開発者が製品やサービスの運営を中止した場合、Facebook社が削除を要請するか、開発者がデータを受け取るエラーになる。 施行&監督：更新された規約では、開発者に対するFacebook社のデータセキュリティ要件の規定が強化されている。データ漏えいが発生した場合には、Facebook社に通知し、すぐに問題の修復を始め、妥当な範囲でFacebook社と協働することが求められる。また、監査、停止、施行に関するFacebook社の規定も明確化している。 開発者ポリシー：統合、品質コントロール、ユーザーエクスペリエンス、コンテンツ、美的、機能に関する要件をそれぞれ分け、開発者ポリシーという単一のドキュメントにまとめた。 <p>・1-4及び3-1参照。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ会社との間で、ユーザーにより良いサービスを提供するために取得した利用者情報を連携する場合がある。 ・利用者情報を連携するグループ会社の範囲は、プライバシーポリシーに記載することによってユーザーに説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同意取得にあたってのユーザーへの情報提供の在り方を判断するガバナンスシステム、及び当該ガバナンスシステムが適切に機能していることを第三者から監視・評価を受けるための仕組みについては、2-5のとおり。 ・4-1のとおり、当社は、当社が定める基準を満たす安全管理措置を講じている第三者にのみパーソナルデータを提供する。 ・位置情報については、4-1のとおり。 	

社名	Apple Inc.	Facebook Japan株式会社	Google LLC	LINE株式会社	ヤフー株式会社
5. サードパーティによる情報取得への対応方針					
5-1. ウェブブラウザやアプリ経由等でサードパーティが情報取得することについての方針 (Third Party Cookieや広告ID等の取扱い) ウェブとアプリで方針は同じ異なるか。	<ul style="list-style-type: none"> 一部のWebサイトでは、第三者コンテンツ提供者を使用している。第三者コンテンツ提供者は、製品やサービスの広告を出すためにWebサイト間でユーザーをトラッキングする可能性がある。Safariでは、「サイト越えトラッキングを防ぐ」の設定を有効にすることで、ユーザが第三者コンテンツ提供者のWeb サイトを閲覧しない限り、トラッキングデータは定期的に削除される。(Safariとプライバシー: https://support.apple.com/ja-jp/HT210675) Cookie は、サイト側が同じ人が再訪してきたときにわかるように、訪問者のデバイスに残していくデータである。Safariで「すべてのCookie をブロック」の設定ができる。(iPhone、iPad、iPod touch で Safari から閲覧履歴と Cookie を消去する) Appで収集した情報をサードパーティと共有することについて、App Store Reviewガイドライン (https://developer.apple.com/jp/appstore/review/guidelines/#legal) 「5.1.2 データの使用と共有」に規定するとともに、App Storeでは、すべてのAppleプラットフォームを対象に、ユーザーがApp をダウンロードする前にAppのプライバシー方針を確認できるようになった (https://developer.apple.com/jp/appstore/app-privacy-details/)。Appのユーザーデータをサードパーティと共有する場合は、そのサードパーティがAppのプライバシーポリシーやApp Store Reviewガイドラインで求められているものと同等のData protectionをユーザーに提供していることを確認する必要がある 法律で許可されているものでない限り、事前にユーザーの許可を取らずに、ユーザーの個人データを使用、送信、共有することはできない。 Appで収集したデータは、Appの改善や広告の提示といった目的でのみサードパーティと共有することができる。 ユーザアクティビティをトラッキング(*) するには、App TrackingTransparency APIを介して、ユーザーの明示的な許可を得る必要がある。トラッキングについて詳しくは「ユーザーのプライバシーとデータの使用」 (https://developer.apple.com/jp/app-store/user-privacy-anddata-use/) に記載。(*)トラッキングとは、ディベロッパーが自身のApp で収集したユーザーやデバイスに関するデータを、ターゲット広告や広告効果測定を目的として、他社のApp、Webサイト、またはオフラインのプロバイダーから収集されたユーザーやデバイスに関するデータに紐付ける行為を指す。また、ユーザーやデバイスに関するデータをデータブローカーに共有することもトラッキングに該当する。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者がパートナーのサービスを訪問、利用した場合、またはパートナーが連携する外部パートナーを通して、パートナーは利用者のデータを受け取る。これらのパートナーが当社にデータを提供する前に、パートナーが利用者のデータを取得、利用、共有する正当な権利を有していることを当社は当該パートナーに要求する。 	<ul style="list-style-type: none"> 第三者とのユーザーの情報共有に関するポリシーは、プライバシーポリシーの「ご自分の情報の共有」に規定されている。プライバシーポリシーはすべてのユーザーデータ及び第三者についてグローバルに適用される。詳細は 1-3参照 ユーザーのデータを匿名化、統計化し個人が特定できない形で第三者と共有することがある。 	<ul style="list-style-type: none"> LINEアプリにサードパーティが情報を取得するモジュールを設置する場合、情報を取得する事業者の名称、取得される情報の項目、利用目的等について、ユーザーへ情報提供を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> Yahoo! JAPANのサイトでは、提携先が、ユーザーのコンピュータにクッキーを送信・保存し、これを利用してYahoo! JAPANのサイトを訪れたユーザーの情報を蓄積・利用している場合があり、プライバシーセンターの「第三者の配信する行動ターゲティング広告 (第三者によるクッキーの利用) について」において連携先を公表している。 Yahoo! JAPANのサービス等の利用状況を調査するために市場調査会社やサービスの利用状況分析ツール提供会社に対して、Yahoo! JAPANのサービス等に掲載された広告の効果測定するためや、より適切な広告を配信したりするために広告効果測定ツール提供会社や広告主・広告代理店に対して、よりユーザーに合ったコンテンツを提供するために、パートナー企業に対して、クッキーの設置やアプリ開発キットの組み込みなどによる情報の直接取得を認めており、プライバシーセンターの「パーソナルデータの取得」の「パーソナルデータを第三者が直接取得する場合」において説明している。
5-2. フィンガープリント、Unified ID 2.0 等のクッキーの代替手段での情報取得の動きについての考え方	<ul style="list-style-type: none"> 2-1の「プライバシー 機能」の「『フィンガープリント』作成の防止」記載のとおり、Safari は、広告主やウェブサイトが個々のデバイスが持つ特性のユニークな組み合わせを使って「フィンガープリント」を作成し、ユーザーを追跡するのを防ぐ。簡略化されたシステム構成を提示し、トラッカーの目に多数のデバイスが同一に見えるようにすることで、各ユーザーのデバイスを特定しにくくしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ここ数年、当社が取り組んできた方法のひとつであり、今後も優先的に取り組んでいくものが、プライバシー保護技術 (PET) への投資である。これは、より少ない個人データを処理しながらパーソナライズされた広告を提供することを目的としている。例えば、人々のデバイスに残っているデータを使ってアルゴリズムを学習する方法を検討している。また、プライバシーに配慮した広告測定システムの構築に向けた業界の取り組みをリードしており、いくつかの技術をオープンソース化して他社が利用できるようにしている。 World Federation of Advertisers (世界広告主連盟) のクロスメディア測定イニシアチブなど、業界のイニシアチブに参加し、高度な広告ユースケースを可能にするプライバシー重視の測定システムの構築を支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> プライバシーサンドボックスの重要な目的は、個別ユーザーに関するデータを共有したり秘密裏に追跡したりする、不透明もしくはユーザーから見えない技術から、人々を保護する技術を開発することである。(これはフィンガープリントとして広く知られている。) 一例としては、端末のIPアドレスを悪用して、オプトアウトの知識がない利用者やオプトアウトの選択肢がない利用者を特定しようとするといった手法があげられる。Chromeは、ウェブサイトの通常の動作を妨げることなく利用者の アイデンティティ を保護するために、IPアドレスをマスクする方法の新たな仕様提案として Gnatcatcher (https://github.com/bslassey/ip-blindness) を公開した。他の提案仕様と同様に、ウェブコミュニティからのフィードバックに基づき今後も改良を続けていく。 この点に関するGoogleの考えに関する詳細は https://japan.googleblog.com/2021/02/2021-privacy-sandbox.html 参照。 	<ul style="list-style-type: none"> 当社の広告事業では、フィンガープリント、Unified ID 2.0といったクッキーの代替手段を導入する予定は今のところない。 	<ul style="list-style-type: none"> 広告事業において、現在の3rd Party Cookieによる場合よりもユーザーのプライバシー保護を担保できる代替手段があれば導入を検討する可能性はあるが、現時点で代替手段による情報取得の予定はない。
6. アプリ提供マーケット					
6-1. SPI に関する取組状況	<ul style="list-style-type: none"> SPIを、参照すべき政府ガイドラインの1つとして強調している。(ドキュメント ユーザーのプライバシーを保護する (https://developer.apple.com/jp/documentation/uikit/protecting_the_user_s_privacy/)) 		<ul style="list-style-type: none"> Google Playは、アプリやゲームがユーザーのデバイス上でアクセスしようとしているデータについて、ユーザーが十分な情報を得た上で、判断できるような支援に努めている。その取り組みの一環として、Google Playストアのアプリの掲載情報に個人情報の収集と使用の方法を開示するよう、デベロッパーの皆様に義務付けている。詳細については、「How Play works」のウェブサイト (https://play.google.com/intl/ja_jp/about/howplayworks/) を参照。 		
6-2. アプリケーションプライバシーポリシーの作成や利用者情報取扱いの透明性確保の観点からのアプリ提供者に対する働きかけや情報提供	<ul style="list-style-type: none"> Appのディベロッパーに対し、App Store Reviewガイドライン (https://developer.apple.com/jp/app-store/review/guidelines/#legal) 「5.1.2 データの使用と共有」と、App StoreでのAppのプライバシーに関する詳細情報の表示 (https://developer.apple.com/jp/app-store/appprivacy-details/) で、プライバシーポリシーの記載、利用者情報の取扱等について詳細に規定。例えば： <ul style="list-style-type: none"> すべてのAppには、App Store Connectのメタデータフィールドと各App内にアクセスしやすい形で、プライバシーポリシーへのリンクを必ず含める必要がある。プライバシーポリシーはわかりやすく明確なものである必要がある。 ユーザーや使用状況に関するデータを収集するAppでは、収集するデータが収集の時点またはその直後の時点で匿名であると考えられる場合でも、そのデータ収集に関してユーザーから同意を得る必要がある。 有料の機能は、ユーザーデータへのアクセスをユーザーが許可することを条件とすることはできない。 Appでは、簡単にアクセスできるわかりやすい方法でユーザーが同意を撤回できるようにする必要がある。 必ず、「目的」でデータの用途を明確かつ十分に説明する必要がある。 Appでは、ユーザーのアクセス許可設定を尊重する必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> 不要なデータアクセスに同意するようユーザーを誘導したり、だましたり、強制したりすることは許されない。可能であれば、アクセスに同意しないユーザー向けに別の方法を用意してすることが推奨される (たとえば、位置情報の共有に同意しないユーザーには、住所を手動で入力できる機能を用意することができる、など)。 ユーザーに情報を視覚的に提示する際は、必ずSafariViewControllerを使用する必要がある。SafariViewControllerを非表示にしたり、別のビューレイヤーで隠したりすることは許されない。また、SafariViewControllerを使用して、ユーザーの認知や同意なしにAppでユーザーのトラッキングを行うことは許されない。 		<ul style="list-style-type: none"> セキュリティに投資しており、デベロッパーによる悪用や不正を検出する、いくつものシステムを導入している。例えば、デベロッパーによるユーザーの情報へのアクセスについて定めた Google API利用規約は、デベロッパーが収集、使用、他者と共有する利用者情報について明確かつ正確に定めたプライバシーポリシーを提供し遵守することを義務付けている。また、デベロッパーが明示的な「オプトイン」の同意なく、利用者の非公開データを他の利用者やサードパーティに開示することや、スクレイピング、データベース構築、その他利用者データの恒久的コピーを作成することも禁止している。 GoogleのAPIサービス利用者データポリシーは、デベロッパーがユーザーのGoogleアカウント データにアクセスするための許可を求めることを義務付けている。それらのアクセス許可の要求は、ユーザーにとって合理的なものでなければならず、アプリ実装に必要な情報に限定される必要がある。デベロッパーは、アプリの既存機能やサービス実装に必要な Google ユーザーのデータへのみ、ユーザーへアクセスを求めることができる。 Google Playでは、アプリとゲームがデバイス内のどのようなデータにアクセスを求めるとしてユーザーが十分な情報を得た上で判断できるよう支援している。この取り組みの一環として、以前から、デベロッパーが Google Playストアのアプリリストで、どのようにユーザーの情報を収集し使用しているかを開示することを義務付けてきた。2015年にAndroid Marshmallowを発売した時には、利用者がいつでも、自身のデバイスでこまめに許可を確認、付与、拒否できるランタイム権限を導入した。 		

社名	Apple Inc.	Facebook Japan株式会社	Google LLC	LINE株式会社	ヤフー株式会社	
7. PIA・アウトカムについての考え方						
7-1.	PIAの導入状況 (GDPRのDPIAの具体的な実施方法や、その他の実施事例)	<ul style="list-style-type: none"> GDPR及び人権活動の一環として、主な製品やサービスについてPIAを行うとともに、新たな製品やサービスを開発するにあたってPIAを統合している。レビューは、アルゴリズムシステムに依拠した意思決定があるか否か、当該意思決定による個人や人権への影響を評価することを含む。リスクレベルが、識別されたリスクによって1年から2年にわたる再評価期間とともに全てのデータ利用に割り当てられる。もしもアルゴリズムシステムの開発に個人データが利用されている場合には、ユーザーのために、Appleの業界を牽引するコントロールに合わせて、ユーザーがそれらのデータ利用に同意しコントロールする手段を提供する。また、当社のPIAプロセスの一環として、全ての企業買収でプライバシー慣行を十分に評価することもしている。PIAでは、当社がビジネスを行う関連法域において法律がどのようにプライバシーに影響を与え、関連するプライバシーリスクをどのように評価するかを考慮する。 (プライバシー・ガバナンス (https://www.apple.com/legal/privacy/en-ww/governance/)) 	<ul style="list-style-type: none"> プライバシー・レビュー・プロセス (以下、「プライバシー・レビュー」) を導入している。プライバシー・レビューは、人々の情報の収集、使用、または共有及び、当社のプライバシーおよびセキュリティ慣行に関する外部への説明に係るプライバシー・リスクを評価するプロセスである。また、このプライバシー・レビューは、当社が特定したプライバシーリスクを識別し、軽減するためのものでもある。プロダクトや機能の開発、新規または慣行の見直しは、プライバシーに関する以下のような観点から行われる。 <ul style="list-style-type: none"> 目的の限定：人々に価値を提供する、限定された明確な目的のためにのみデータを処理する。 データの最小化：明確な目的を達成するために必要な最小限のデータを収集・作成する。 データの保持：明確に示された目的を遂行するために実際に必要とされる期間のみ、データを保持する。 外部からのデータ取用：データの乱用、偶発的な損失、および権限のない第三者によるアクセスからデータを保護する。 透明性と管理：プロダクトの動作やデータの取り扱いについて、積極的に、明確に、正直に伝える。可能な限り、また適切な場合には、人々が管理できるようにする。 データへのアクセスと管理：弊社が収集または作成したデータに人々がアクセスし、管理できるようにする。 公正さ：弱い立場にある人々のリスクを特定して軽減し、人々のために価値が創造されるようなプロダクトを構築する。 説明責任：当社の意思決定、プロダクト、業務に関わる内部プロセスおよび技術的コントロールを維持する。 プライバシー・レビューは、当社のコンプライアンス義務を評価して遵守し、法的要件を超えた広範なプライバシーリスクを特定して軽減するために使用される、深く協力的で部門横断的なプロセスである。プライバシー・レビューは、プライバシーチームが主導し、プロダクト、エンジニアリング、法的規制、セキュリティ、ポリシーなどのバックグラウンドを持つ、法務、ポリシー、その他を含めた横断的なチームに所属する社内のプライバシー専門家グループが実施している。このグループは、プライバシー審査の決定と提案を行う役割を担っている。 プライバシー・レビューの一環として、横断的なチームは、プロジェクトに関連するプライバシーリスクを評価し、それらのリスクをコントロールするために発売前に行う必要のある変更があるかどうかを判断する。横断的なチームのメンバー間で何をすべきかの合意が得られない場合、チームはより上層のリーダーシップに諮り、解決のために必要であればさらにCEOに語る。 	<ul style="list-style-type: none"> プライバシーとセキュリティに対するGoogleの投資は、すべてのプロダクトにおいて一貫している。Googleの製品や機能は、Google社内全体からの意見に加えて、世界中のユーザーや専門家から定期的に意見を募るGoogleのプライバシーとデータ保護オフィスの専門家の承諾を得るまで提供を開始することはない。 	<ul style="list-style-type: none"> 当社では、PIAを導入している。具体的には、新規サービス・機能のリリース時等にPIAを実施し、プライバシーへの影響を評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> 2-5のとおり、当社のガバナンスシステムが適切に機能することを担保するための取り組みとして、プライバシー影響評価(PIA)の試験運用を始めており、本格運用を目指して取り組みを進めている。
7-2.	利用者情報の取扱いに関するアウトカムについての検討状況 (検討している場合、どのような考え方に基づき判断しているか)	7-1参照。	<ul style="list-style-type: none"> 全社的なプライバシーリスクを特定、評価、対処するための年次評価を行うとともに、事故発生後にプライバシーリスクを評価するプロセスを実施するプライバシーリスク評価プログラムを設計している。今後、時間をかけて評価しながら、プライバシーリスク評価プロセスを進化・成熟させていく。 新しいプロダクトや機能にプライバシー・バイ・デザインを確実に組み込むための説明責任プロセス、セーフガード、技術的メカニズムを構築した。 		<ul style="list-style-type: none"> PIAを実施する際、プライバシーの観点における影響の有無・程度、利用者への不利益の有無、利用者の予想に反して情報が外部に公開されないか、利用者が気持ち悪いと感じないかなどといった点を考慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> 2-5のとおり、当社のガバナンスシステムが適切に機能することを担保するための取り組みとして、プライバシー影響評価(PIA)の試験運用を始めており、本格運用を目指して取り組みを進めているが、この中でユーザーに提供する便益とデータの利用によるユーザーへの影響のバランスが取れているか考慮される予定。
7-3.	利用者に対する、PIAの結果やアウトカムの説明の取組状況	プライバシー・ガバナンスについて以下を参照。 https://www.apple.com/legal/privacy/en-ww/governance/	<ul style="list-style-type: none"> ニュースルームの投稿(「データを安全に転送するための手順」など)、データポリシー、透明性レポート、利用者へのグローバルな通知と更新、Facebookヘルプセンター(利用者がプライバシーや共有の設定を行う際に利用できる「プライバシーチェックアップ」など)を通じて、プライバシーに関する決定事項を明らかにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> PIAの結果を踏まえて、サービス・機能の実装の際に説明やチュートリアルを追加する等の対応を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> PIAの本格運用にあたって検討予定。 	